

# 創薬支援推進事業・創薬シーズ実用化支援基盤整備事業

## 事後評価結果

### 1. 基本情報

補助事業課題名	イノベーティブ創薬支援ユニット
補助事業実施期間	平成 29 年度～令和 3 年度（予定）
代表機関名	国立大学法人東京大学
補助事業代表者 部署・役職・氏名	医科学研究所・先端医療開発推進分野 教授 長村 文 孝

### 2. 評価結果

良い（総合的に計画した成果が得られた）

### 3. 評価コメント

国内での製造が限られる遺伝子治療ベクター／遺伝子組換えウイルスの製剤、遺伝子導入細胞や次世代ワクチン・アジュバント等の新規モダリティを対象としたアカデミア創薬シーズの支援に必要な製造設備を整備し、遺伝子ベクターのラボスケールにおける製造準備を完了させた。運用については、実施機関内の指揮命令系統を一元化し、迅速な対応が可能となる体制を構築した点は評価できる。また、欧米の複数施設への訪問調査を実施し、基礎研究、非臨床試験、スケールアップ製造の観点から収集した知見を報告書にまとめ、本事業への活用を行った。今後は本事業で整備した設備や運用体制を踏まえて、民間企業との協業等も視野に広く国内の創薬支援に活用されることを期待する。

以上